

SSKS 療育ねっとわーく川崎

2020年9月20日発行
No.233 (4000部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり



Q あの衝撃的で痛ましい事件から1年が経過し、裁判も結審しました。世間では裁判後はメディアで目にすることもほとんどありません。私の働いている事業所では年に数回このことについて考える機会を持ちます。先日もやまゆり園事件について考えて感想を書くという研修課題がありました。でも私には難しくよくわかりません。どう考えれば良いでしょうか。

A 事件直後や判決後の現在に至るまで、社会学者や福祉関係者等の有識者の方達が、様々なコメントを述べています。それでも事件の風化は否めません。この事件に限らず、日本は問題だとされる事件等が、風化していつてしまふ事が多いと思います。特に障害者に関しては、古くから(最近までと言ってもいいかもしれませんが)、世間に見えないようにする・見て見ぬふりをする、という社会的背景の影響も大きいかもしれません。

最近の出来事で、福祉業界で働く若者が、「この事件自体を知らない。」と言われた時には衝撃を受けました。新聞もニュースも見えない人たちにとっては、それが当たり前なのかもしれません。

【第5次ノーライゼーションプラン団体ヒアリング 意見集計結果】

ノーライゼーションプラン団体ヒアリングへのご協力ありがとうございました。たくさんのご意見が集まりました。紙面に限りがあり、残念ながらニュースに全て載せることが出来ません。お寄せいただいた全ての意見を皆さんにもご覧頂きたく、インターネット上に集計結果を公表します。

【アンケート結果イメージ】



お寄せいただいた意見は、以下のヒアリング項目に基づいて集計致しました。

ヒアリング項目

- ① 今の生活で困っていること
- ② 住み慣れた地域や本人が望む場で生活するために必要なこと
- ③ 本市の相談支援体制に対して思うこと
- ④ 本市の日中活動の場のあり方について思うこと
- ⑤ 本市の福祉資源について思うこと
- ⑥ 今後、本市に充実してほしいサービス等について
- ⑦ その他(自由にご意見をください)

【アンケート結果へのアクセス方法は2つあります】

- ①療ねのHPにアクセス <https://rond2981.jimdofree.com/> →トップ画面に結果掲載しています

- ②QRコードからアクセス →スマホカメラで読み取ってください



インターネット上で回答を見ることが難しい方、遠慮なく事務局までご連絡ください。
事務局：044-930-0160 (七川)

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
Tel 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費一口 1000円

会員・賛助会員募集

今月号の目次

- 1 こんなときどうするの.....1
- 2 障害者手帳がカードに.....2
- 3 車椅子のまま車に乗ること.....3
- 4 第5次ノーライゼーションプランのヒアリング 意見集計結果.....4
- 5 勉強会のお知らせ.....5
- 6 『19のいのち』感想文.....6
- 7 明日香のたまご.....7
- 8

(本誌5・6・7・8面は会員のみに郵送)



車椅子のままに車に乗ること

のり せいどじょうほう
紀さんの制度情報

私たちは、日ごろの生活で移動の際に、車椅子のまま乗れる車（いわゆる福祉車両）を利用することがあると思います。私自身なんの疑問なく利用させていただいていましたが、実は車椅子と車椅子のまま乗れる福祉車両の両方が、事故などが起きた時の安全性を満たしていないのだそうです。

具体的にどういうことかという

- ・車椅子の形状が様々で、シートベルトが適正な形で装着出来ない。
- ・車椅子の形状が様々で、車椅子の固定の方法を徹底出来ない。
- ・電動車椅子などだと、固定しても衝突等の衝撃が加わると、車の床がはがれて車椅子ごと飛んでいく。
- ・そもそも車椅子のまま車に乗ることを想定していない。

このようなことを問題視していた「かながわ福祉移動サービスネットワーク」は有識者、自動車メーカー、車椅子メーカーに呼びかけを行い、「車いす・車両乗車時の安全に関する研究会」を立ち上げました。

その背景と目的は

【背景】

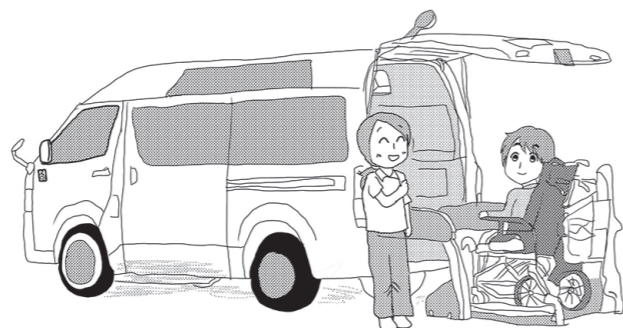
- ・車いすのまま福祉車両に乗車の際の、固定の問題、体系や身体状況によってシートベルトが適正に使用できない課題、ヘッドレストはなく事故時の安全が担保されないなど、外出支援を担う現場においても課題が認識されていたにもかかわらず、放置されてきたのが現状といえる。
- ・そんな折、デイサービスの送迎中、車いすユーザーが自動車事故で死亡する例が連続して発生して、報道されるに至った。現場の担い手の扱い方の技術・知識の不足、車両乗車時の車いすの安全性が機器としても確保されていないことも改めてクローズアップされた。

※参考報道記事 <https://www3.nhk.or.jp/news/special/miraiswitch/article/article36/>

【目的】

- ・車いす対応の福祉車両に乗車する際、日常生活に使用している車いすから乗り替えることなく乗車し、さらに、安全が確保されていることを目標と定め、シートベルト、ヘッドレストについて、どの車いすにも適用できる汎用性があり、だれもが使用できる利便性などについて勉強し、現場の活動に生かしたい。

私たち、療育ねっとわーくも含め、人ごとと思わずに、福祉車両を利用しての外出が、安全に行っていけるように協力していきましょう。



障害者手帳がカードに

行政の手続きや公共交通機関で頻りに提示する障害者手帳。今までは文字通り紙製の「手帳タイプ」でしたが、利便性向上を理由に運転免許証などと同じ「カード化」に向けて動き始めています。

きっかけは昨年4月、厚生労働省が身体障害者手帳・精神障害者福祉療育手帳はカードタイプでの発行が数年前より許可されていましたが、身体・精神の手帳は不可でした。ちなみに紙の身体障害者手帳には、氏名や住所、障害等級のほか補装具の支給状況などが記載されているものの、補装具の支給状況や転居した際の過去の住所などは表記されなくなりました。またサイズは運転免許証や保険証と同じです。

ないかは自治体ごとの判断に委ねられており、全国どこでも完全に移行するわけではありません。導入にはシステムの改修に多額の費用がかかることが地方の自治体を中心にネックになっているようです。事実、唯一認められていた療育手帳のカード化を行っていたのは、少なくとも昨年末時点では山口県のみでした。

カード化の実施状況ですが、東京都では今年10月から交付が開始されるほか、神奈川県でもある神奈川県議会議員のブログによれば、来年度中に導入するとの情報がありました。カードタイプの交付は希望者のみのため、希望しなければ引き続き紙の手帳が発行されます。

厚労省が障害者手帳カード化を進める一方、民間では障害者手帳の「スマホ（電子）化」を行えるサービスが運営されています。株式会社ミライロIDが提供するスマホアプリ「ミライロID」で、アプリを通して障害者手帳の写真を送ると、ミライロIDが審査の上でスマホの画面上に障害者手帳が表示されます。このアプリは行政が提供しているものではないため、障害者手帳と全く同じように使えるわけではなく、使える場所はミライロIDに加盟している企業や団体に限られます。利用料金は無料です。

利用可能な企業や団体は、大手鉄道会社では京王電鉄・西武鉄道の2社のみです。ほかには大手航空会社や一部バス会社などの公共交通機関に加えて、映画館・カラオケ屋・博物館・携帯電話会社などが加盟しており、アプリを提示すると障害者割引が受けられます。ただ、京王電鉄・西武鉄道ではふだんの乗車券購入では利用出来ず、窓口での定期券や回数券の購入など一部に限られています。利用可能な全ての機関は、ミライロIDのホームページで確認出来ます。

またミライロIDは民間企業が提供するアプリのため、実際に利用する際はアプリの評価レビューなどを確認して、ご自身で判断をお願いいたします。（文・金子文俊）

ひまわり体操のご紹介

麻生養護でPTだった小玉先生より連絡があり、コロナで外出出来ず体が硬くなっている重度障害のこどもたちにふさわしい体操があるので、ぜひ紹介してほしいとのことでした。

<https://youtu.be/yOBu1TcHwb0> で見てください。

このひまわり体操は、肢体不自由の方がリラックスして、保護者（支援者）と一緒に心地よく、体を動かすきっかけづくりを目的に作りました。新型コロナウイルスの影響を受け、外出がなかなかできない方でも、自宅で実践していただけるよう専門家の監修のもと、オリジナル音源と体操を作成し、YouTube 動画として一般公開しています。【お問い合わせ】社会福祉法人慈湧会 honbu@jiyuukai-midori.or.jp 《社会福祉法人慈湧会 緑の家》

